

(別紙様式 1)

平成 30 年 4 月 2 日

研究開発実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 北海道札幌市中央区北 3 条西 7 丁目
管理機関名 北海道教育委員会
代表者名 柴 田 達 夫 印

1 実施種別

☐ 幹事校

☒ 幹事校以外 北海道登別明日中等教育学校

2 研究開発名

AKB Future Project『世界の明日を創る』
～未来のグローバル・リーダーの育成～

3 研究開発の概要

本校は、世界に羽ばたき、新たな時代を築く有為な人材の育成を目指し、国際理解教育・外国語教育を重視するとともに、多様な体験活動を実施している。今後は、これまでの国際理解教育等の教育活動を基盤として、グローバル・リーダーとして求められる資質能力である、「国際的な対話力」、「課題解決力」、「情報発信力」を育成するとともに、地域（北海道）や世界の食糧問題についての探究型学習に取り組むことにより、経済や環境、産業（主に農業）、地域振興など多面的、多角的な分野・領域から物事を考察する力を育成する。加えて、5 年間の指定期間で、世界の 5 大陸を訪問し、フィールドワーク（調査研究等）やディスカッション・交流活動等を実施することにより、日本人としての自覚（アイデンティティ）や誇りをもつとともに、国際的視野を広げ、将来、国際的に活躍し貢献しようとする人材の育成を図る。

4 事業の実施期間

契約日～平成 31 年 3 月 31 日

5 平成 30 年度の研究開発実施計画

ア 研究開発の重点目標

研究の完成期と位置付け、第四年次までの成果を一般化し普及を図る。研究の成果を報告書や刊行物にまとめて、研究会等で発表し、より一層の普及活動に努める。

イ 研究開発の概要

(ア) 国際的な対話力を育成する学習プログラム開発の推進

[第四年次までの研究開発を継続]

- ・ 12 月に 3 回生を対象に英語語学研修を実施し、コミュニケーションの基礎を育成する。
- ・ 12 月に 5 回生を対象に実施するアメリカ・カナダ研修において、ワシントン大学等での研修及び自主研修におけるテーマ別学習を実施する。
- ・ 4, 5 回生の「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」において、ALT による食糧問題等をテーマとしたディスカッション及びディベートの演習を実施する。
- ・ 11 月に 4, 5 回生を対象に、北海道大学教員、外務省・総領事館職員によるコミュニケーションや異文化理解に関するセミナーを実施する。
- ・ 7 月に希望者を対象に、北海道大学の留学生等を運営協力者とする 3 日間の英語キャンプを実施し、本校の 6 回生にグループ・リーダーとしての役割を担わせる。（道内の S G H 指定校、アソシエイト校にも参加を呼びかける。）

- ・北海道教育委員会が主催する「北海道スーパーイングリッシュキャンプ」や、北海道高等学校文化連盟等が主催する英語弁論大会等に参加する。
 - ・登別観光協会と連携し、訪日観光客への通訳ボランティアとして活動する。
- (イ) 課題解決力を育成する学習プログラム開発の推進
[第四年次までの研究開発を継続]
- ＜4回生のみ対象＞
- ・5月に、北海道農政部職員等による北海道の食と農についての講演を実施する。
 - ・6月に、大学教員等による日本及び世界の食糧事情についてのワークショップを実施する。
 - ・7月に、JICA研修員等による世界の食糧事情についてのワークショップを実施する。
 - ・8月に、JETRO職員等による世界の貿易や経済事情等についてのワークショップを実施する。
 - ・9月に、酪農・畜産と食との関連や課題研究に関する地域フィールドワークを実施する。
 - ・11月に、グローバル企業におけるジョブシャドーイングを実施する。
- ＜5回生のみ対象＞
- ・8月に、大学教員、農業経営者、生産物や水産食品などに携わる職業人を講師とした課題研究テーマ別によるセミナーを実施する。
 - ・アメリカ・カナダ研修において、海外の大学生とのディスカッションを実施する。
- ＜その他＞
- ・4回生に学校設定科目「SG社会と情報」、5回生に学校設定科目「SG家庭基礎」を設置し、当該科目及び総合的な学習の時間において、食糧問題に関する課題研究にグループで取り組む。
 - ・4、5回生を対象に課題研究に関する取材や視察、実地調査等を行う地域フィールドワークを実施する。
 - ・4、5回生を対象に海外フィールドワークを2回実施し、訪問国の食糧事情や農業等についての実地調査を行う。
 - ・4～5回生を対象に、6回生による海外フィールドワークや各事業への参加に関する報告会を実施する。
 - ・ESS及び生徒会を中心として、海外のユネスコスクール等とテレビ会議システムやメールを通して、課題研究のテーマに沿った討論・意見交換を実施する。
 - ・ルーブリックの研究開発を推進する。
- (ウ) 情報発信力を育成する学習プログラム開発の推進
[第四年次までの研究開発を継続]
- ・12月に5回生を対象に実施するアメリカ・カナダ研修において、姉妹校で日本の文化等についての英語プレゼンテーションを実施する。
 - ・1月に4、5回生を対象に、課題研究発表会を実施する。
 - ・4回生の「英語表現Ⅰ」等において、テレビ会議システムを利用して海外の高校生との討論・意見交換を通年で実施する。
 - ・6回生の学校設定科目「国際観光学」において、地域経済活性化プランを作成し、その成果を本校ホームページ等で発信する。
 - ・北海道高等学校文化連盟主催の英語プレゼンテーションコンテスト等に参加する。
 - ・本研究に関する取組や成果などを英語のホームページで随時発信する。
 - ・国際会議（済州青少年フォーラム等）に参加するとともに、登別観光協会等と連携して通訳ボランティアの活動を進める。
 - ・1月の発表会等において、課題研究の成果を英語でプレゼンテーションできるように取り組む。
 - ・6回生において、ALT及び外部講師等からの指導や助言をもとに、英語による論文の作成に取り組む。
 - ・5年間の研究成果を踏まえ、今後の北海道や日本の農業の在り方に関する具体的な提案を北海道知事（農政部）や農林水産省（北海道農政事務所）に行う（2月）。
 - ・5年間の研究の集大成として、全国のSGH校や大学・関係機関等に広く呼びかけ、課題研究を軸とする様々な学習プログラムで培った資質・能力に基づいた成果を発表する場としてAKB Future Project Forumを開催する（3月）。

<添付資料>

・平成30年度教育課程表

6 事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
課題研究	実施校	(小島 啓一, 山田 浩)
海外研修	アメリカ・カナダ	(加藤 伸和, 山田 浩)
海外フィールドワーク	オーストラリア, タンザニア	(荻島 勝幸, 勘野 雅恵)
食糧問題に関する講演や ワークショップ等	実施校	(山田 浩, 半藤 幸広)
異文化理解に関するセミナー	実施校	(小島 啓一, 則房 優希)
留学生との英語キャンプ	ニセコ町等	(板谷文美子, 小島 啓一)
グローバル企業での ジョブシャドウイング	札幌市等	(籠山 学, 上田 直人)
地域フィールドワーク	札幌市等	(半藤 幸広, 山田 浩)
ループリックの研究開発	実施校	(板谷文美子, 勘野 雅恵)

7 課題項目別実施期間

[illegible]